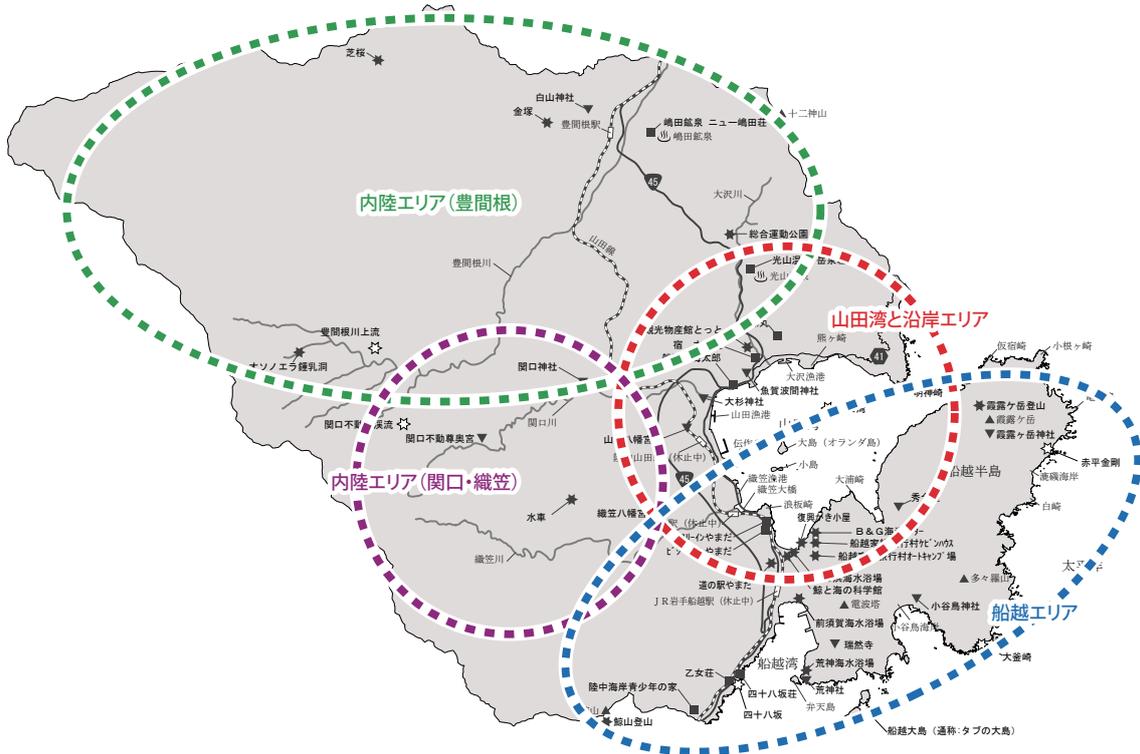


6. エリア別の取り組みの方向性

町内を、地域の性格に基づいて、大まかに4エリアに区分（山田湾と沿岸エリア／船越エリア／内陸エリア（豊間根）／内陸エリア（関口・織笠））し、エリア毎に、観光復興に向けた取り組みの方向性を示す。

図 6-1 エリア区分



6-1. 山田湾と沿岸エリア

「山田湾と沿岸エリア」は、主として、山田湾を囲む沿岸エリアで、山田、大沢、織笠、船越、大浦等を含む。

図 6-2 山田湾と沿岸エリア



図 6-3 山田湾と沿岸エリアの特色ある主な地域資源(一例)



(1) 当エリアの観光復興の方向

当エリアは、産業や地域文化（郷土芸能、祭り他）が集積し、交通拠点でもあり、人々の賑わいが見られる「山田の顔・玄関口」である。商業、飲食業、漁業、水産加工業等も集積しており、これらを積極的に活用した観光を推進する。

(2) 当エリアにおける重点プロジェクト・施策の展開イメージ

① エコツーリズム・体験観光の展開イメージ

- ・ 農漁業、水産加工業、商業他との連携による体験プログラムの開発・提供（販売）の促進
- ・ 宿泊・滞在を促す体験プログラムの開発・提供（販売）の促進
- ・ 漁家の暮らしや郷土料理、祭りや伝統芸能等を活用した体験の促進
- ・ 震災関連プログラムの開発・提供（販売）の促進

② 物産の展開イメージ

- ・ 観光事業（者）と連携した商品開発・販売の促進
- ・ 水産物・水産加工品の流通・販売の促進
- ・ 水産加工品の開発促進（ブランド力の高い新商品の開発 他）

③ 飲食・宿泊の展開イメージ

- ・ 観光・体験と組み合わせた宿泊の推進
- ・ 郷土食の発掘・活用の推進、山田の産物を活用した「山田らしさ」を感じるメニュー開発・提供の促進
- ・ 町内に滞在している復興工事関係者やその家族等へのプロモーション

④ その他

- ・ 地域シンボルとしてのオランダ島の活用促進
- ・ 町内の景観スポットの発掘と活用の推進（漁業景観、山田湾の景観スポット、祭り等 他）
- ・ 観光客への効果的な情報発信（山田駅周辺での観光案内、山田町の玄関口として必要となる情報の提供 他）

6-2. 船越エリア

「船越エリア」は、主として、船越半島と四十八坂を含むエリアである。

図 6-4 船越エリア



図 6-5 船越エリアの特色ある主な地域資源(一例)



(1) 当エリアの観光復興の方向

当エリアは、国道 45 号線からのアクセスが良く、観光拠点施設が集積し、船越半島の豊かな自然環境に恵まれた、「山田の観光拠点」である。これらの資源を積極的に活用し、周遊（立ち寄り）や滞在型の観光客の受け皿としていくことを推進する。

(2) 当エリアにおける重点プロジェクト・施策の展開イメージ

① エコツーリズム・体験観光の展開イメージ

- ・ 船越半島の豊かな自然を活用したプログラムの開発・提供（販売）促進（霞露ヶ岳登山、トレイルウォーク 他）
- ・ 船越半島の断崖景観（赤平金剛、大釜崎 他）の活用方策の検討
- ・ 宿泊の推進（船越家族旅行村や町内宿泊事業者との連携 他）

② 物産の展開イメージ

- ・ 「道の駅やまだ」をはじめとする観光拠点での地場製品の販売促進、山田の物産に関する情報発信の促進

③ 飲食・宿泊の展開イメージ

- ・ 「復興かき小屋」の活性化・利用促進
- ・ 郷土食の発掘・活用の推進、山田の産物を活用した「山田らしさ」を感じるメニュー開発・提供の促進
- ・ 町内に滞在している復興工事関係者やその家族等へのプロモーション

④ その他

- ・ 「船越家族旅行村」と周辺施設、海水浴場の整備促進（「浦の浜」については 6-5 を参照。なお、「荒神海水浴場」は、主として町民による利用を想定する）
- ・ 「鯨と海の科学館」を拠点とした地域学習や遊び、体験等の提供に向けた環境整備の促進
- ・ 町内の景観スポットの発掘と活用の推進（漁業景観、船越半島からの眺望、山田湾の景観スポット、祭り景観 他）
- ・ 観光客への効果的な情報発信（観光拠点施設等での情報提供 他）

6-3. 内陸エリア(豊間根)

「内陸エリア（豊間根）」は、主として、内陸部の豊間根地区周辺を含むエリアである。

図 6-6 内陸エリア(豊間根)

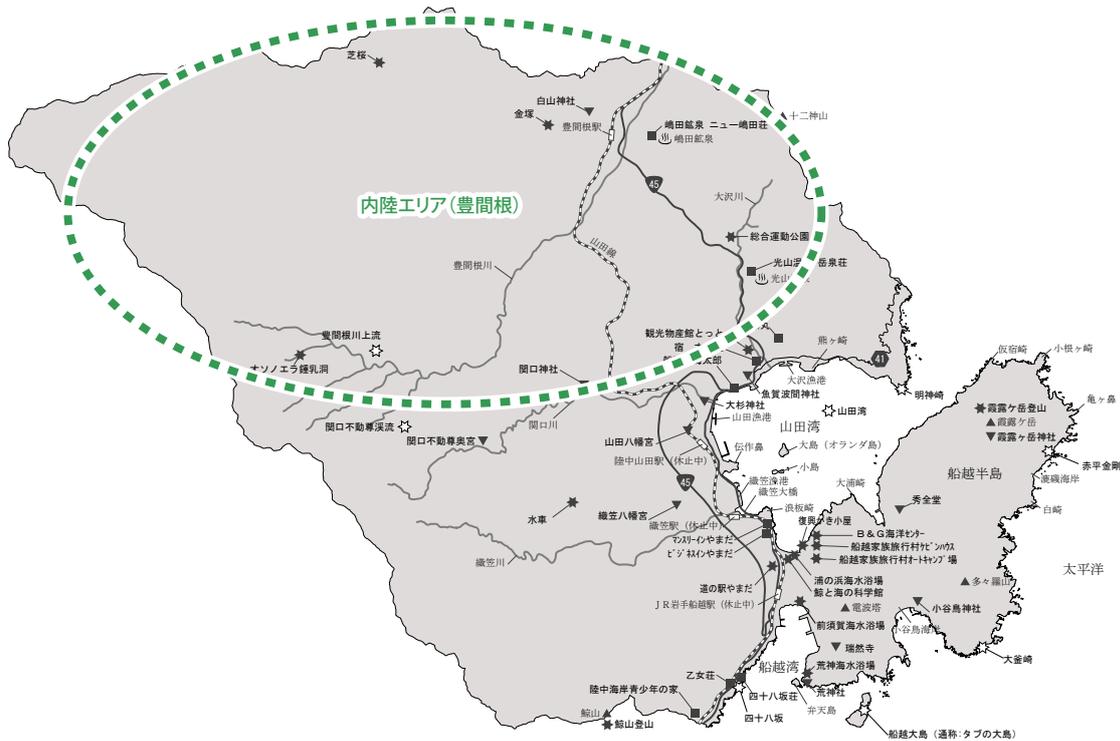


図 6-7 内陸エリア(豊間根)の特色ある主な地域資源(一例)



(1) 当エリアの観光復興の方向

当エリアは、農村の暮らしの風景や、山田の歴史を感じる資源（古民家、史跡、伝説、地質資源等）が豊富に見られる「山田の奥座敷」である。これらの資源を積極的に活用し、主に体験を通じた人と人との交流を図りながら観光を推進する

(2) 当エリアにおける重点プロジェクト・施策の展開イメージ

① エコツーリズム・体験観光の展開イメージ

- ・ 史跡や古民家等の歴史関連の資源（金塚と隠れキリシタン関連史跡、豊間根家住居と地域の歴史、一東堂（一東上人）と南部家との関わり 他）、の発掘
- ・ 資源を活用した体験プログラム等の開発・提供（販売）の促進（観光プログラムの検討 他）
- ・ 地質（ジオ）資源の発掘と活用（ジオツアー、ジオトレッキング 他）

② 物産の展開イメージ

- ・ 地場で採れる農産品の流通・販売の促進
- ・ 地場で採れる農産品を活用した加工品の開発促進

③ 飲食・宿泊の展開イメージ

- ・ 郷土食の発掘・活用の推進、山田の産物（地場で採れる農産品等）を活用した「山田らしさ」を感じるメニュー開発・提供の促進
- ・ 町内に滞在している復興工事関係者やその家族等へのプロモーション

④ その他

- ・ 景観スポットの発掘と活用の推進（農業景観、古民家、寺社仏閣 他）
- ・ 歴史資源や地質資源の観光案内情報の整備の検討

6-4. 内陸エリア(関口・織笠)

「内陸エリア (関口・織笠)」は、主として、内陸部の関口・織笠地区周辺を含むエリアである。

図 6-8 内陸エリア(関口・織笠)



図 6-9 内陸エリア(関口・織笠)の特色ある主な地域資源(一例)



(1) 当エリアの観光復興の方向

当エリアは、山田らしい里山の暮らしが見られる「山田の原風景」である。普段の暮らしや、大切にされてきた社寺等を、生活とバランスを取りながら活用し、主に体験を通じた人と人との交流を図りながら観光を推進する。

(2) 当エリアにおける重点プロジェクト・施策の展開イメージ

① エコツーリズム・体験観光の展開イメージ

- ・ 地域の暮らし（農作業、農家の暮らし、郷土料理、伝統芸能他）を活用した体験プログラム等の開発・提供（販売）の促進（そば打ち体験 他）
- ・ 農村景観を活かした観光プログラムやルートの検討（里山フットパス、関口川上流部でのトレッキング 他）

② 物産の展開イメージ

- ・ 地場で採れる農産品の流通・販売の促進 ※織笠：白石そば等
- ・ 地場で採れる農産品を活用した加工品の開発促進

③ 飲食・宿泊の展開イメージ

- ・ 郷土食の発掘・活用の推進、山田の産物（地場で採れる農産品 他）を活用した「山田らしさ」を感じるメニュー開発・提供の促進

④ その他

- ・ 景観スポットの発掘と活用の推進（農業景観、古民家、寺社仏閣 他）
- ・ 散策のための観光案内情報の整備の検討

6-5. 「オランダ島」および「浦の浜」の利活用について

前述のエリアの取り組みの方向性に加えて、特に有力な資源である「オランダ島」および「浦の浜」の利活用について、「取り組みの方向性」と「具体的な利用イメージ」を示す。

表 6-1 「オランダ島」と「浦の浜」の利活用における位置付けの違い

	オランダ島	浦の浜
利活用コンセプト	非日常（特別、限定的）	日常（賑わい）
利用者像	少人数、じっくり	誰でも、いつでも
アクセス方法	シーカヤック、漁船、帆船等	徒歩、自転車、車等
具体的な利活用のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・じっくり滞在利用 ・マリンレジャーやマリンスポーツの中継基地として利用 ・特別なイベントでの利用 他 	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽な立ち寄り利用 ・マリンレジャーや砂浜レジャーの拠点としての利用 ・幅広く町民や観光客が参加するイベントの会場としての利用 ・海水浴利用 他

(1) オランダ島の利活用について

① 取り組みの方向性

オランダ島は、山田町のシンボルであり、山田町民の原風景となっている町内各所から見渡せる観光資源であり、「見られる（絵になる）」ことを意識することが必要である。

このことに加えて、島内での利用方法としては、オランダ島の立地やシンボル性を活かし、利用と保全のバランスをとりながら、少人数がじっくりとその雰囲気や活動を楽しむことができるような観光体験を推進する。



② 具体的な利活用イメージ

具体的な利活用イメージを例示する。今後、オランダ島での楽しみ方を明確に示していくことが重要である。

(i) じっくり滞在利用

渡船で島に渡り、周囲に養殖筏と、山田市街部を見渡す特別な空間の中で、自然と生活文化を感じながら、独特の時間の流れを体感する。

【具体例】

- ・ 昼寝をしたり、読書をしたり、砂浜を歩いたり等、特に何かをするではない、制約のない自分だけの過ごし方を楽しむ機会の提供
- ・ 星を見る、夕陽を見ながらビールを飲む、というような日常で体験していることを非日常の場所であるオランダ島で体験するプログラムを提供
- ・ バリアフリーダイビング等、障害がある人も楽しめるプログラム等の提供
- ・ 魚介資源を活用したレジャー 他

(ii) マリンレジャーやマリンスポーツの中継基地として利用

マリンレジャー、マリンスポーツの中継基地、休憩ポイントとして利用する。

【具体例】

- ・ シーカヤックや帆船等の休憩や昼食の場所として活用
- ・ マリンレジャーと組み合わせた散策プログラム等の提供 他

(iii) 特別なイベントでの利用

オランダ島の独自性や雰囲気を活用した特別なイベントを企画・開催する。イベントは、公的な行事から民間事業者による収益事業まで、幅広く想定する。

【具体例】

- ・ 環境教育の要素が盛り込まれた島の自然観察会（エコツアー、島探険等）の開催
- ・ アクティビティ要素の強いイベント（カヤックレース、スタンドアップパドルレース）等の開催
- ・ “かきとビールを楽しむランチ”、“山田の魚介を使った創作パスタ”のような新作の創作メニューを発表する会等の開催 他

(2) 浦の浜の利活用について

① 取り組みの方向性

浦の浜は、アクセスが良く、町民観光客を問わず、誰もが気軽に立ち寄れる場所に位置している。

そこで、海水浴時期等には、一時に多数の来訪者を迎え入れることを想定し、国道45号線を通る通過客も、存在に気づき、立ち寄り、山田湾の雰囲気を感じられるような場所とすることが必要である。

そのため、周囲に立地する「鯨と海の科学館」、「復興かき小屋」、「船越家族旅行村」、「道の駅やまだ」等と密に連携し、連続した面的な活用を促進する。また、シーカヤック体験やマリン・ツーリズム等の出発地として、山田湾での様々な体験観光の拠点として活用する。



② 具体的な利活用イメージ

具体的な利活用イメージを例示する。

(i) 気軽な立ち寄り利用

鯨と海の科学館、復興かき小屋、船越家族旅行村、道の駅やまだ等を訪れた人たちが、気軽に散策し、砂浜を訪れることができるようにする。

【具体例】

- ・鯨と海の科学館、復興かき小屋、船越家族旅行村、道の駅やまだ等に立ち寄った人を砂浜へ誘導（観光案内、遊歩道、案内サイン等）
- ・夏だけでなく、春や秋等にも、散策できるような雰囲気やプログラムの提供

(ii) マリンレジャーや砂浜レジャーの拠点としての利用

山田湾におけるマリンレジャーや砂浜レジャーの拠点として利用する。

【具体例】

- ・シーカヤックや小型帆船（セールボート）等の海上アクティビティの拠点（出発場所、休憩場所、ミーティング場所他）
- ・マリンレジャーや砂浜レジャーに必要な機材等の保管や貸出等も検討
- ・砂浜での体操、朝のヨガ体験等砂浜で健康になることを目指す簡単なプログラムの提供
- ・バリアフリーダイビング等、障害がある人も楽しめるプログラム等の提供
- ・藻場を活用した観察会の開催 他

(iii) 幅広く町民や観光客が参加するイベントの会場としての利用

幅広く町民や観光客が参加する地域イベントの会場として利用する。

【具体例】

- ・これまでオランダ島まつり&ビーチフェスタとして開催されていた、マリンスポーツ体験やたらい船漕ぎレース等の開催
- ・新規に、町民や周辺の住民が参加するイベントの実施（ビーチバレー、ビーチサッカー、ライフセービング、自作の船を使ったレース等） 他

(iv) 海水浴利用

山田町民や周辺住民が気軽に訪れる海水浴としての利用を促進する。

【具体例】

- ・家族や友人等と、バーベキュー等が楽しめるような場として活用
- ・「船越家族旅行村」の宿泊客の海水浴利用を推進 他